

2023年7月期 第1四半期 決算補足説明資料

2022.12.05




2929

【免責事項】

本資料に記載されている予測、見通し、戦略およびその他歴史的事実ではないものは、当グループが資料作成時点で入手可能な情報を基としており、その情報の正確性を保証するものではありません。

これらは経済環境、経営環境の変動などにより、予想と大きく異なる可能性があります。



2023年7月期 第1四半期 業績ハイライト

セグメント別ハイライト

	ポイント
連結業績	明治薬品のBtoB、BtoC事業への寄与で前年同期比35%の増収を達成。研究開発投資、新商品及び主力商品への広告投資に注力。
BtoB事業	北米ののアフターコロナの動きに呼応し、ファーマギヤバの採用増加で前年同期比増収。明治薬品の医薬品製造受託は堅調維持で増収に寄与。
BtoC事業	新製品への広告宣伝投資が出だし好調により、定期顧客件数増。2Q以降の売上にも寄与見込み。ニューモ育毛剤QoQで増収。
バイオメディカル事業	プロテオーム解析受託事業の寄与により大幅増収。自己免疫疾患、線維症に研究開発投資を積極継続中。

連結売上高

(百万円)

	2022年7月期 第1四半期	2023年7月期 第1四半期	増減
BtoB事業	504	1,869	270.5%増
BtoC事業	12,091	15,095	24.8%増
バイオメディカル事業	9	59	502.6%増
その他	—	4	—
合計	12,606	17,030	35.1%増

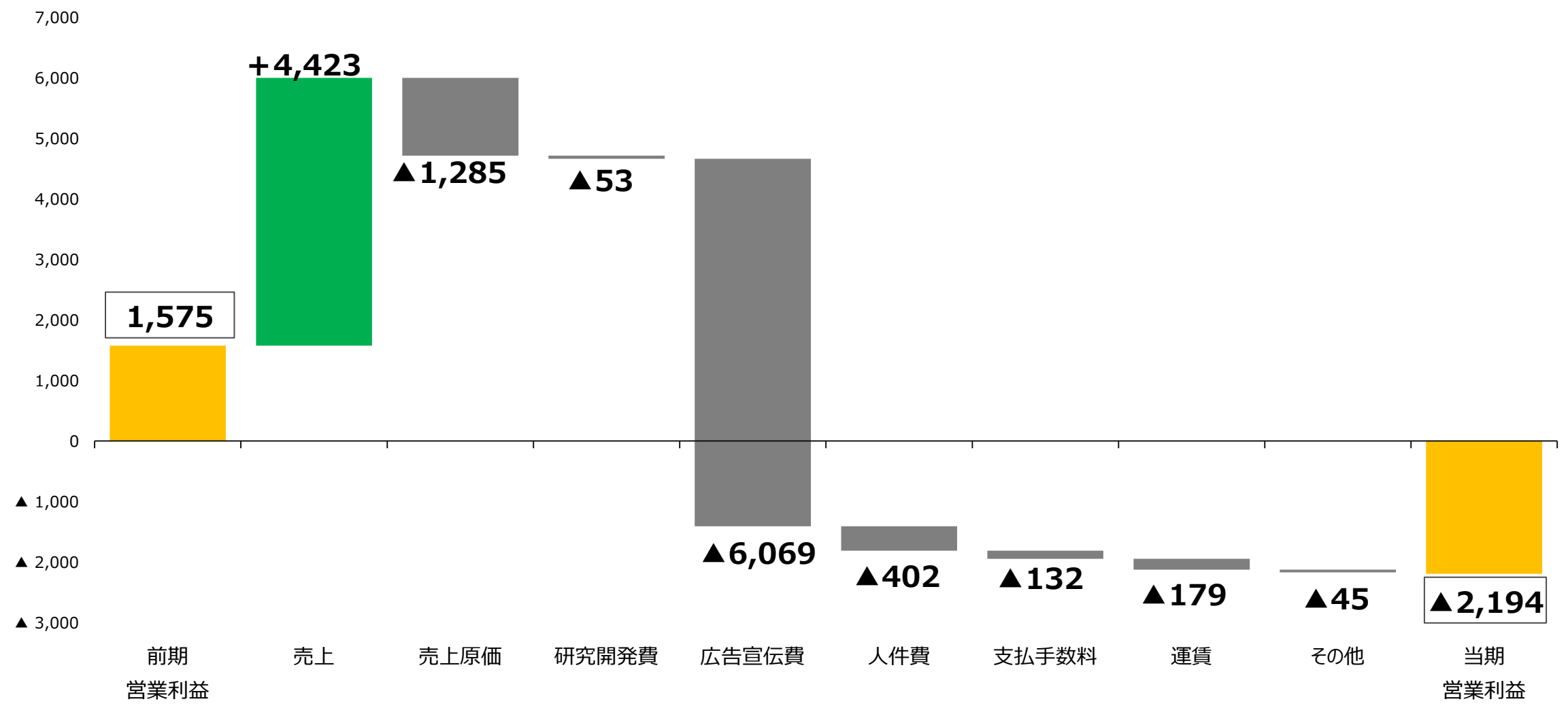
セグメント利益

(百万円)

	2022年7月期 第1四半期	2023年7月期 第1四半期	増減
BtoB事業	3	376	10,350.2%増
BtoC事業	1,818	▲2,100	▲3,919
バイオメディカル事業	▲66	▲69	▲3
その他	—	▲1	—
調整額（全社費用等）	▲180	▲400	▲219
合計	1,575	▲2,194	▲3,769

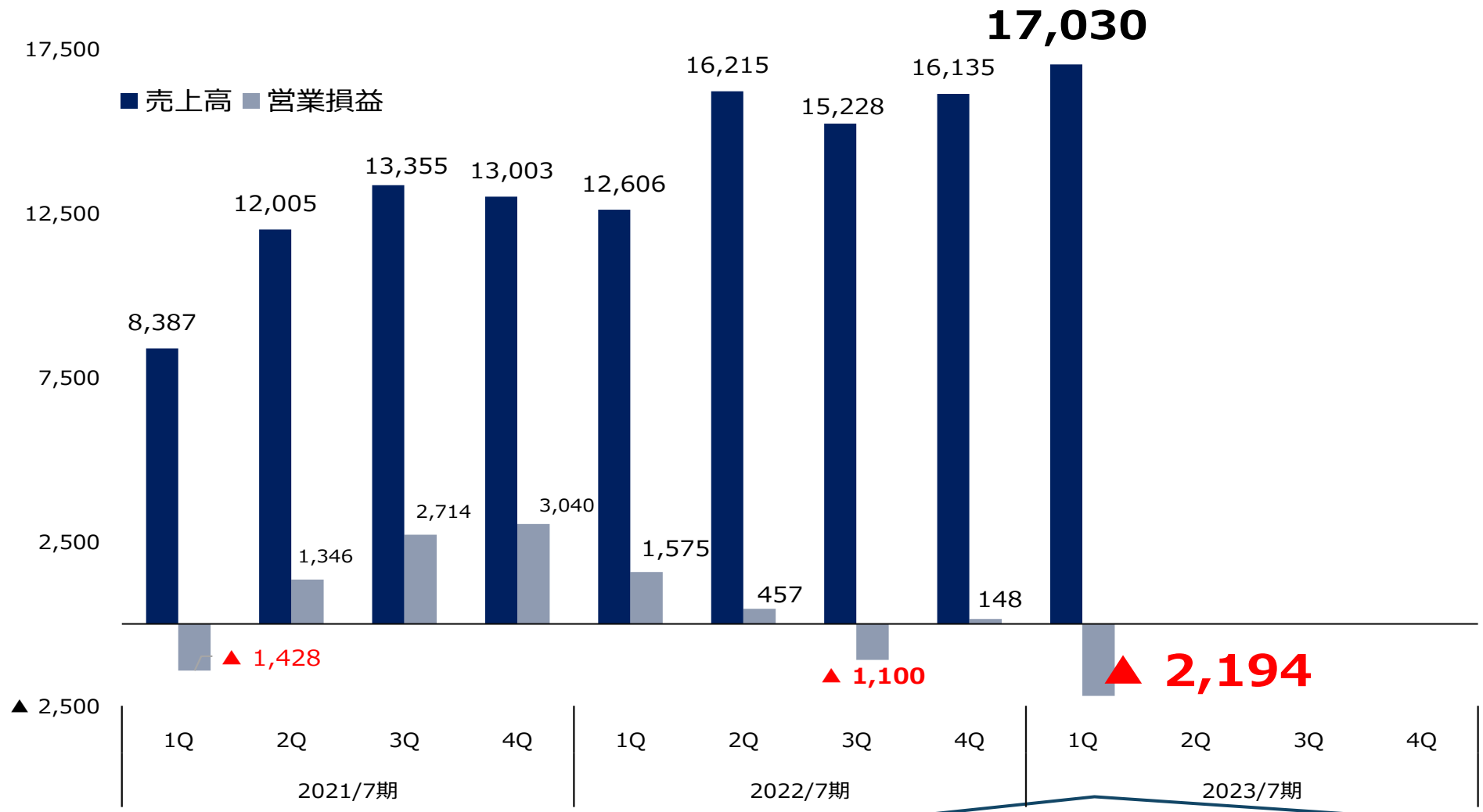
営業利益増減分析

(百万円)



連結四半期業績推移

(百万円)



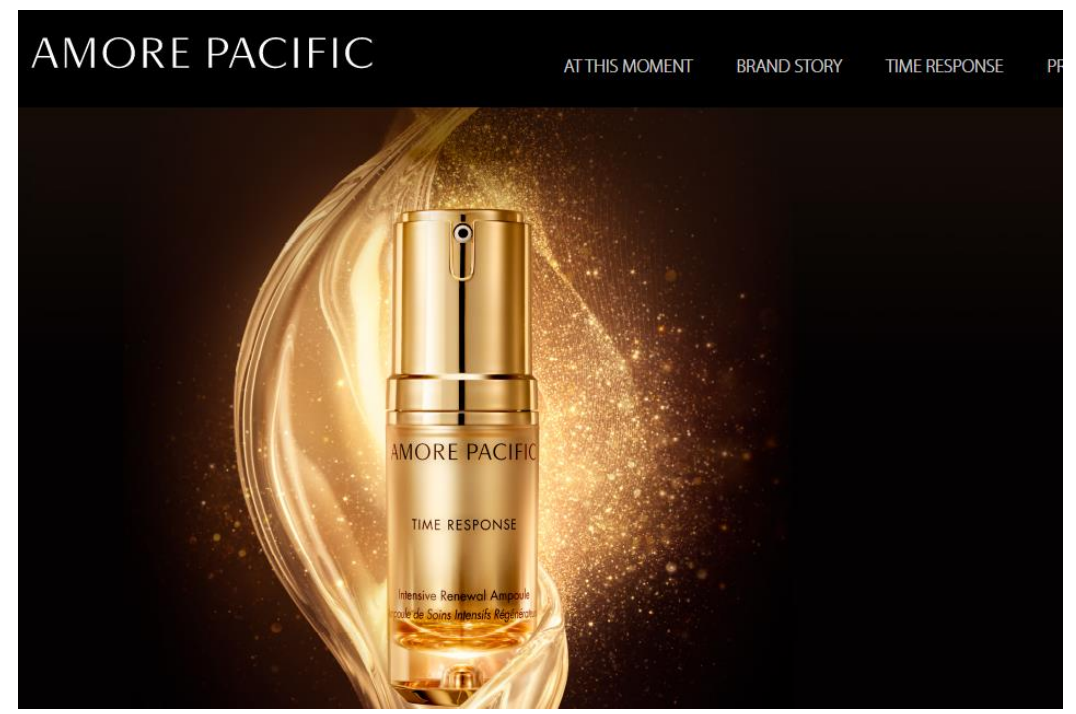
「中期経営計画2026」の実現のため、積極的に新規素材開発、研究員の採用強化をはじめとした研究開発投資、新商品及び主力商品への広告投資に注力。



B to B 事業

韓国No.1化粧品メーカーから睡眠訴求のサプリメント販売

韓国初！GABAで特保。東南アジアや中国も展開へ。



特保※を取得したことによって「GABA」と表記できるように

AMORE PACIFICは、韓国トップの化粧品メーカー

※KDFAによる認証。日本での特保にあたる

アイテム別売上

(百万円)

	2021/7期					2022/7期					2023/7期				
	1Q	2Q	3Q	4Q	合計	1Q	2Q	3Q	4Q	合計	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
ファーマギヤバ	208	369	331	439	1,348	152	304	282	532	1,271	258				
ボーンベップ	37	54	69	86	248	47	50	55	21	176	56				
葉酸たまご	10	14	12	10	48	15	11	10	10	49	10				
ランベップ	4	6	22	25	59	5	24	7	19	57	14				
セレプロン	6	19	12	83	121	2	6	6	1	17	10				
HGP	3	1	1	43	50	5	2	4	4	16	3				
カテキン	3	10	14	10	39	4	3	3	4	16	3				
鶏卵抗体	5	2	2	2	13	2	3	1	2	10	1				
iHA	3	4	0	4	12	0	4	0	3	8	0				
越境EC	0	0	0	3	3	23	85	110	80	300	92				
その他素材	51	34	33	48	167	16	18	17	32	85	16				
OEM	126	179	267	166	739	228	84	131	180	625	196				
CMO ※							1,672	948	1,021	3,642	892				
CHC ※							869	466	465	1,801	312				
合計	460	698	769	924	2,852	504	3,143	2,048	2,382	8,079	1,869				

CMO (Contract Manufacturing Organization) : 医薬品製造受託機関

CHC (Consumer Health Care) : ドラッグストアでの医薬品及び機能性食品等の販売

機能性表示食品受理件数

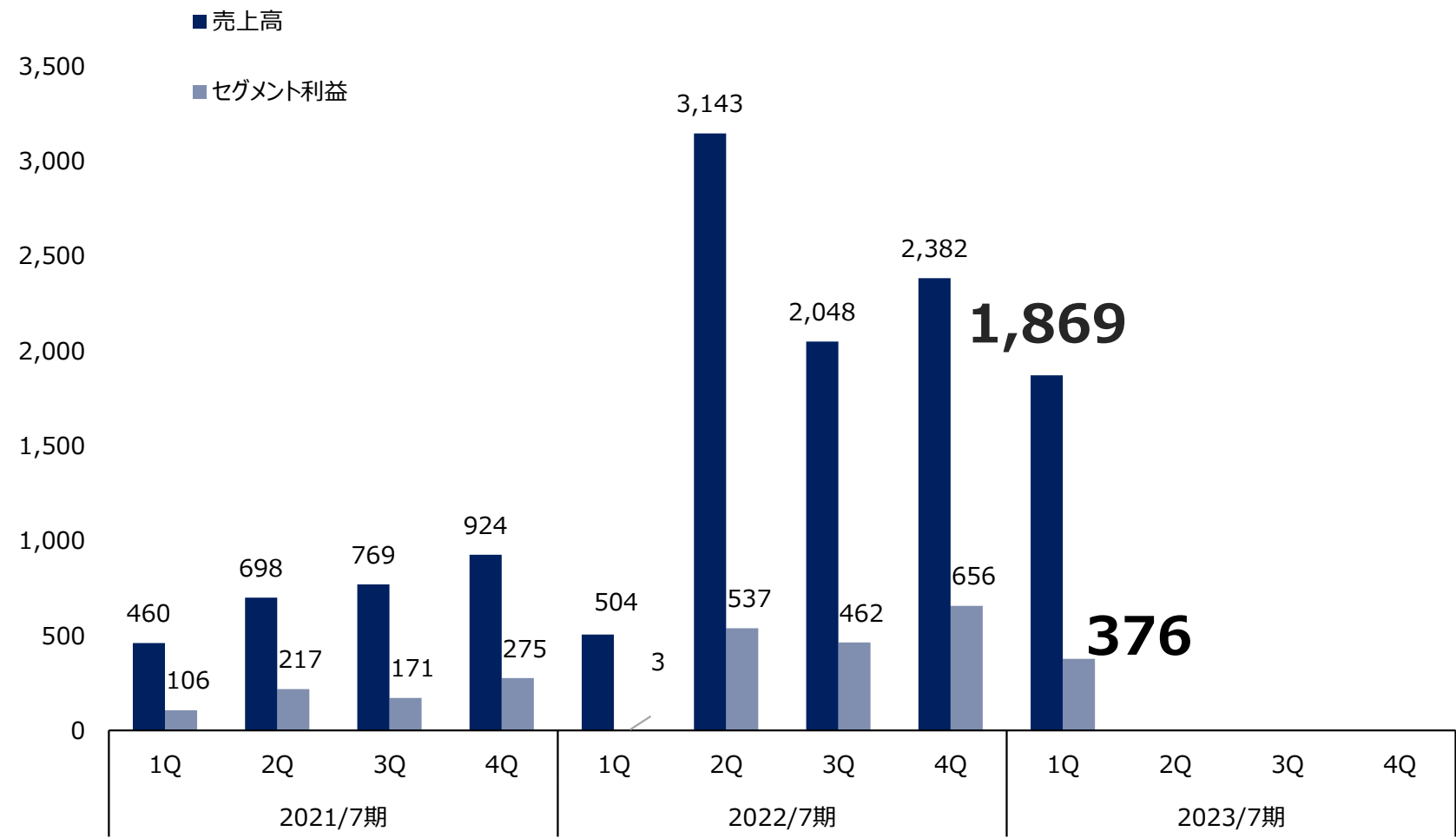
(件)

順位	機能性関与成分	受理数
1	GABA	750
2	難消化性デキストリン	445
3	DHA・EPA	313
4	ルテイン・ゼアキサントチン	277
5	ブラックジンジャー由来ポリメトキシフラボン	205
6	イチョウ葉 (フラボノイド配糖体、テルペンラクトン)	168
7	ビフィズス菌	154
8	葛の花由来イソフラボン	152
9	L-テアニン	138
10	アスタキサントチン	132


2022.10.20 現在 当社調べ

四半期業績推移

(百万円)



機能性素材及び医薬品製造受託ともに増収増益に寄与。



B to C 事業

新製品が着実に成長中

キュラシリーズ（ホワイトニングジェル、マウスウォッシュ）で「オーラルケア」へ参入開始。

育毛剤メーカーが開発した「まつ毛美容液」【まつ毛デラックス WMOA】

日本初 ダブルエンドタイプ
まつ毛美容液誕生

※容器の両側が形状の異なるブラシやチップを備えたダブルエンドタイプとして(輸入品)マスカラ(まつ毛エクステンション用品は除く)
2021年7月 TPCマーケティングリサーチ調べ

速攻美カール
まつ毛強化・保護成分

初回在庫数がわずか
14日間で完売!

一本二役だから
まつ毛が
栄える

塗るたび
美まつ毛
ヘアケア美容成分

まつ毛デラックス WMOA
100万本突破

※1:ハリ・コシのあるまつ毛のこと ※2:ポリマーコーティングによる物理的効果

© 2021年8月12日～2021年8月25日 © 2022年9月24日出荷実績

まつげ美容液、累計出荷数100万本突破。
(2022年9月)
トリートメントマスカラ市場でNo.1を目指す。

卵殻アパタイト配合
※ヒドロキシアパタイト(清掃成分)
DRACULA(キュラ)

ホワイトニング
輝く
白い歯

口臭
予防

歯周炎
予防

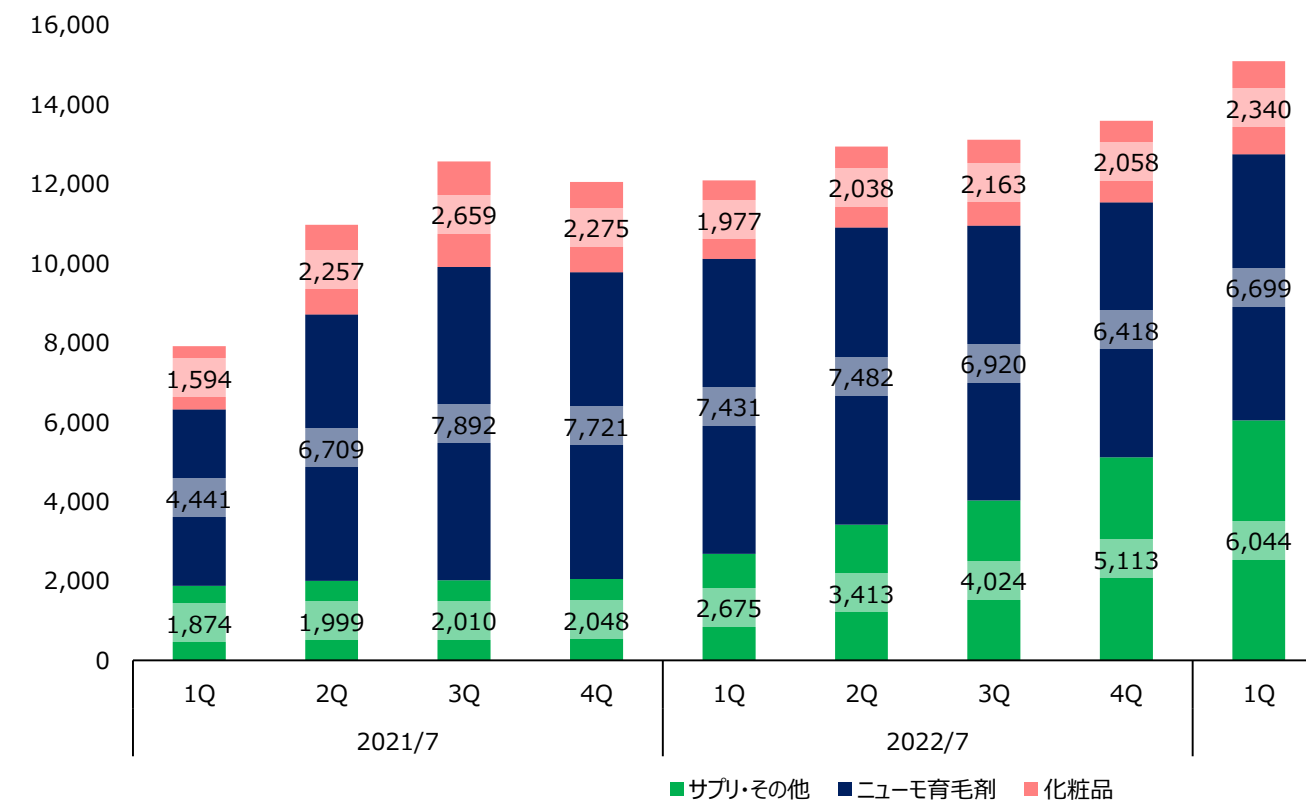
薬用ハミガキ
医薬部外品

© 2022年9月24日出荷実績

アイテム別売上高

(百万円)

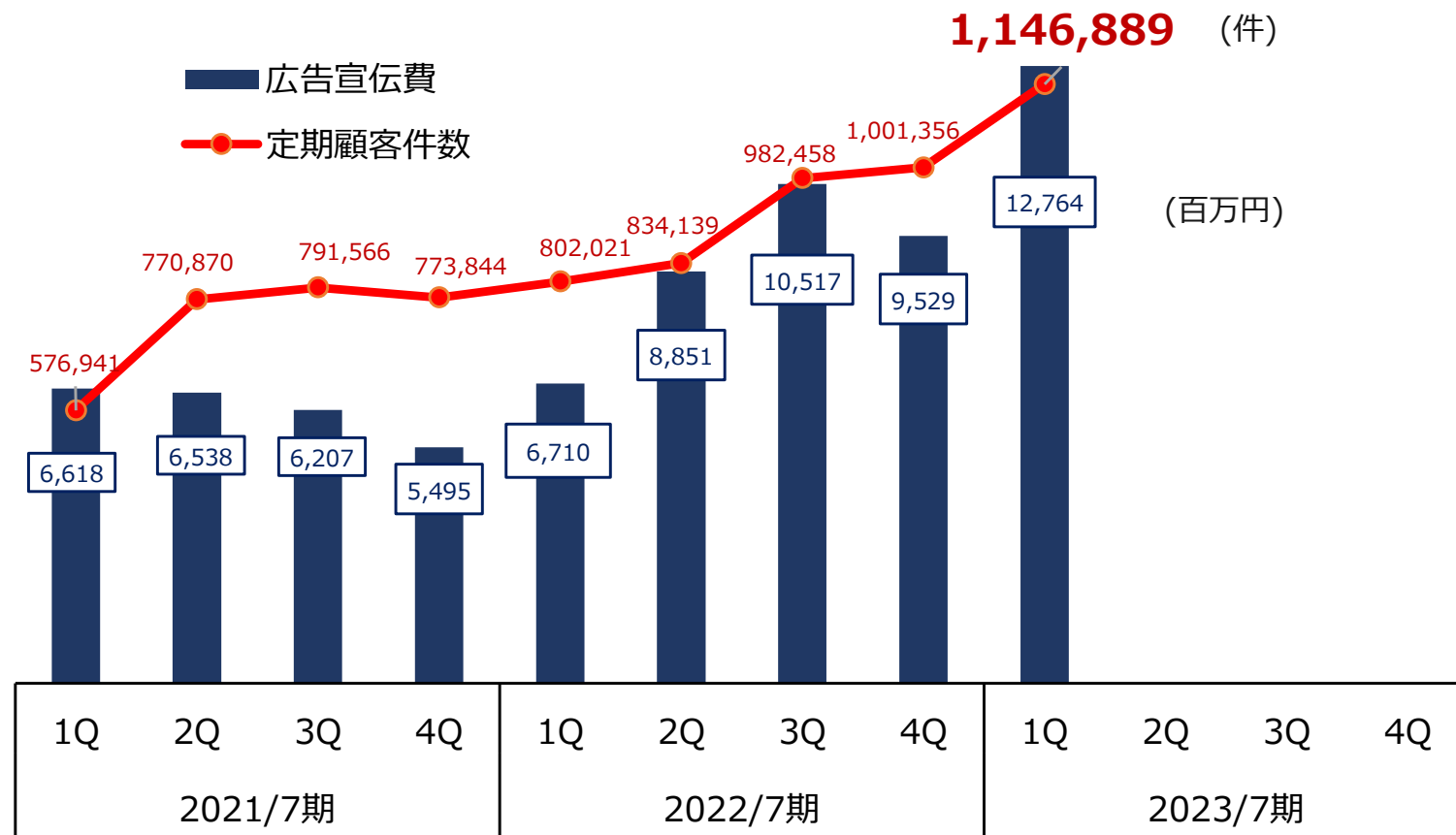
主な製品の売上推移



	'21年7月期				'22年7月期				当期 1Q
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
エアカラーフォーム	690	591	746	1,143	893	949	907	581	422
珠肌のうみつ	343	518	563	411	357	367	462	411	357
珠肌ランシエル	118	131	170	127	118	121	238	508	644
カラーシャンプー									324
ニューモ育毛剤	4,441	6,709	7,892	7,721	7,431	7,482	6,920	6,418	6,699
ニューモサプリ	758	1,060	1,093	893	806	773	635	507	511
タマゴサミン	795	751	774	740	720	628	573	512	509
まつ毛美容液					74	917	879	922	1,488
シボラナイトGOLD						8	652	2,534	2,390
ラクトロン錠									210

主力のニューモ育毛剤のQoQでの増収を支えに、まつ毛美容液、カラーシャンプー等増収けん引。ニューモ以外の製品も着実に育成中。

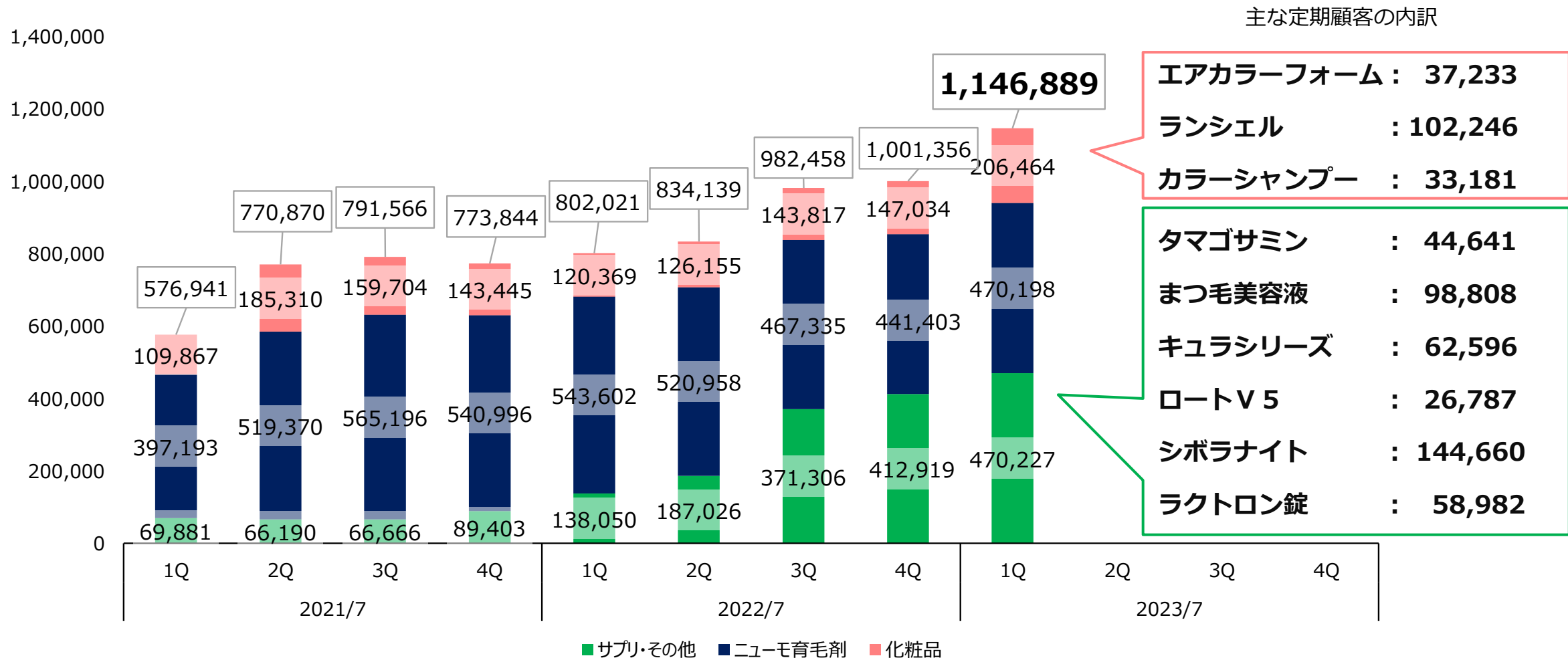
広告宣伝費と定期顧客件数



**1Qから広告宣伝投資が順調に推移。
CPOの規律を守りながら、定期顧客件数の伸びが顕著に。**

定期顧客件数の内訳

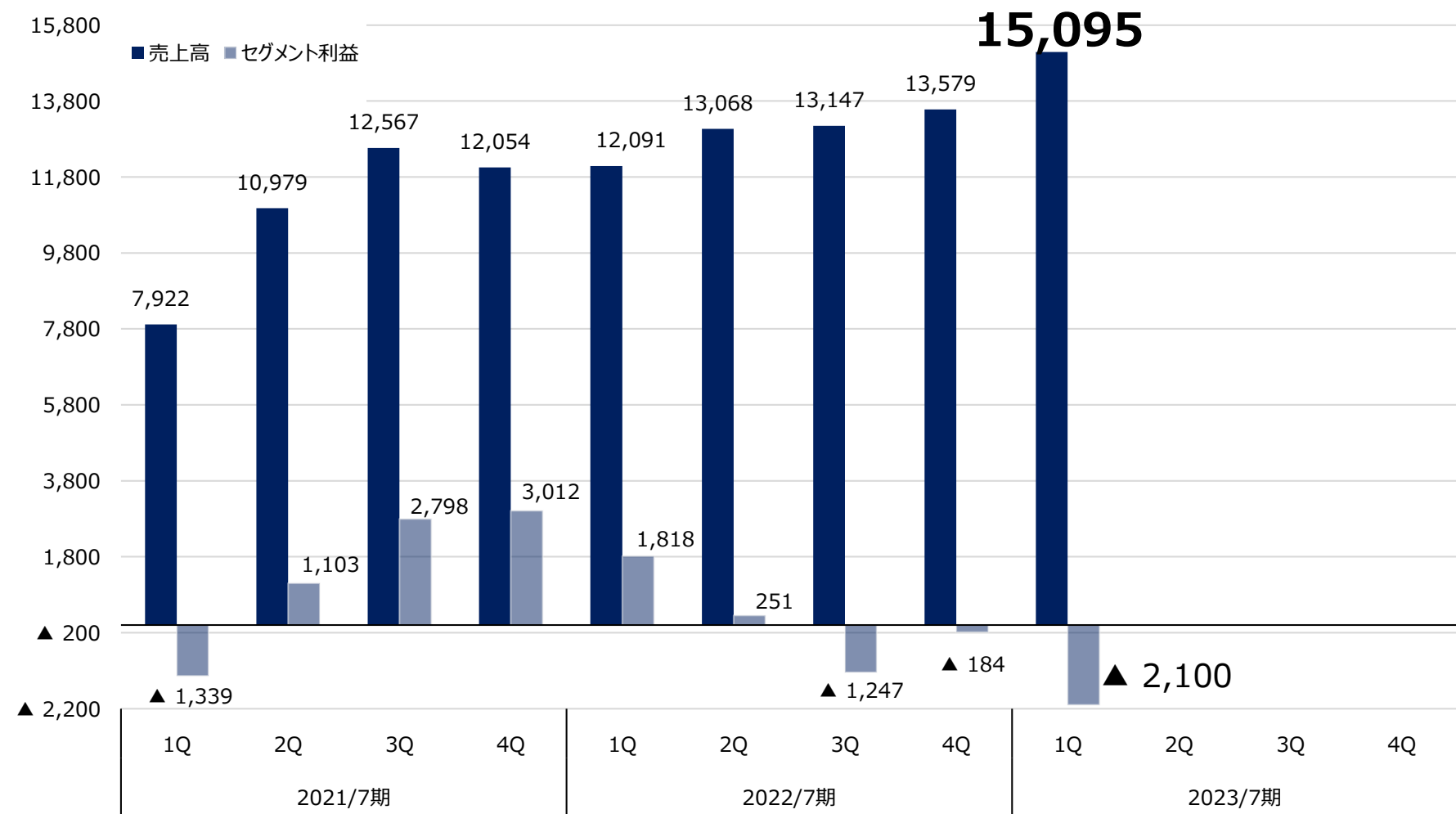
(件)




新製品キュラシリーズ、カラーシャンプーに加え、既存製品のまつ毛美容液、ランシエル等が伸びて他の減少を補う。主力ニューモ育毛剤は再び増加へ。

四半期業績推移

(百万円)



過去最高の四半期売上高を達成。
2期ぶりに1Qからの広告宣伝投下に成功。ニューモ大躍進の'21/7期以来。



バイオメディカル事業

バイオジャパンに出展(2022年10月)



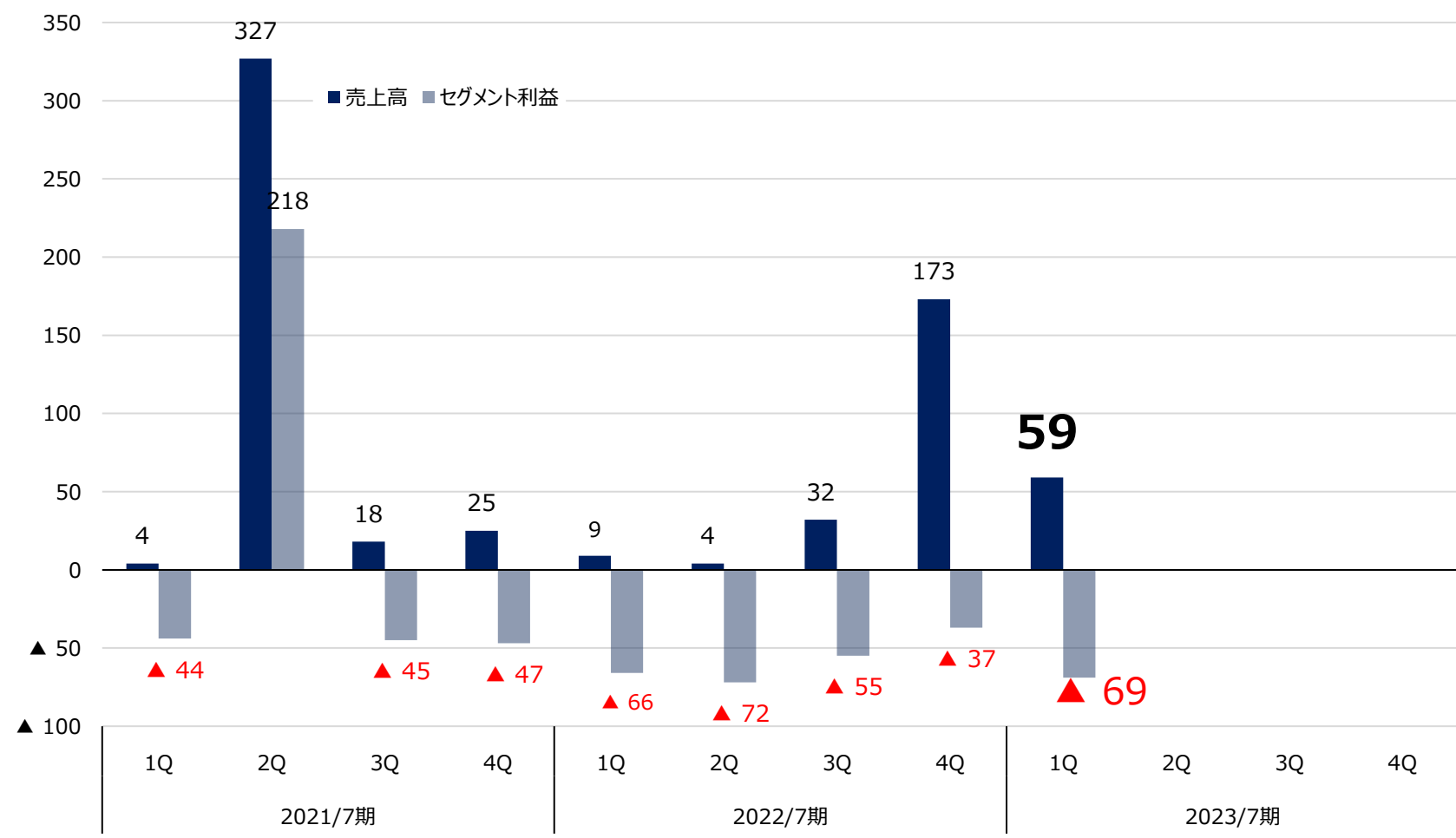
微量タンパク質を定量可能な解析手法
「Olink Target」を日本で初めて提供



ニワトリ抗体技術を国内外の製薬企業と商談
新たなパイプライン創出、共同研究、協業先の開拓に

四半期業績推移

(百万円)



**プロテオーム解析受託事業の寄与により大幅増収。
引続き自己免疫疾患、線維症に研究開発投資を継続。**



2023年7月期業績予想

業績予想値の変更なし

(百万円)

	第1四半期 (累計) 実績	2023年 7月期予想
売上高	17,030	71,000
営業利益	▲2,194	1,191
経常利益	▲2,180	1,268
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲1,820	886

1Qでは想定以上の投資を実行できたものの、第2四半期以降のマクロ経済動向、業界動向及び新製品の各KPIを見ながら慎重に判断するため、業績予想は据え置き。

株主還元

2022年10月、中期経営計画の進捗状況と現在の株価水準等を総合的に考慮し、3億円の自己株式取得

	2022年 7月期	2023年 7月期予想
一株あたり 年間配当金	20円	20円
配当金総額	5.8億円	5.8億円
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲3.74億円	8.86億円
配当性向	—	65.5% ※
自己株式取得	3億円	3億円
総還元性向	—	99.3% ※

※ 2022年9月6日発表の業績予想の親会社株主に帰属する当期純利益に基づく

株主還元方針

当社は、企業の成長性と収益性を両立させる事業方針の下、研究開発、広告宣伝及びM&A等に対する積極的な投資を拡大させながら、株主様に対する還元策として配当等を積極的に充実させていくことを基本方針としております。この方針の下、成長投資の推進、財務健全性の確保及び株主還元の強化のバランスを考慮し、自己株式取得を含む総還元性向20%を株主還元策の目安としております。



Appendix

免疫

老化

神経

B to B 事業

機能性素材事業

PharmaGABA®

B to C 事業

発明企業の通販事業

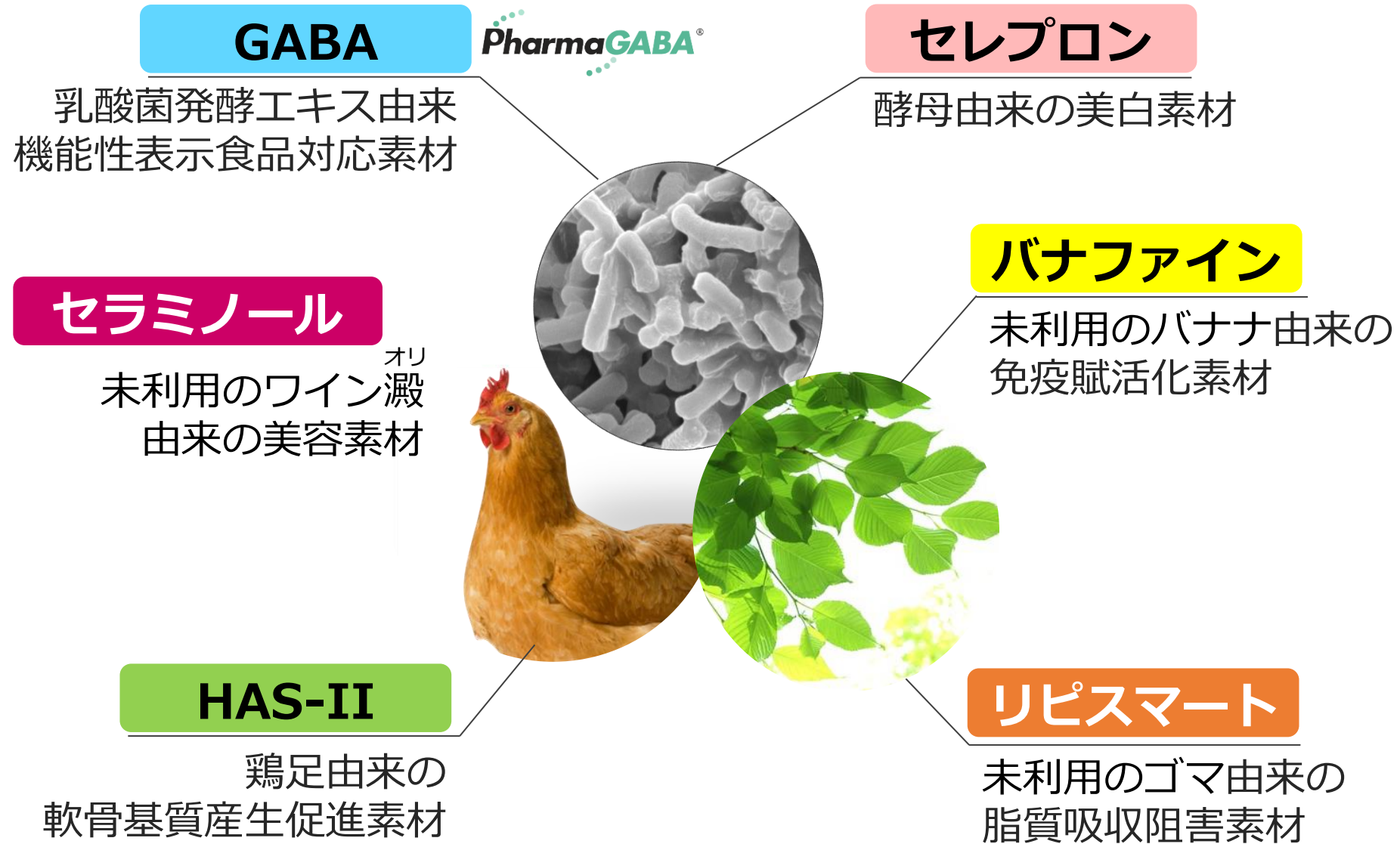
タマゴ基地®
TAMAGOKICHI

創薬事業

Drug Discovery事業

ALAgene®

“天然由来”の原料から機能性素材を探索



“タマゴ”から食品・化粧品の機能性素材を探索



iHA (アイハ)

軟骨増殖

ボーンペップ

骨形成促進



HGP

育毛促進

ランペップ

血流改善



葉酸たまご

核酸の合成



ランシエル

未利用の卵殻膜由来の肌改善美容素材



“発明企業の通販事業”として、健康食品・化粧品・医薬品等を販売



健康食品



化粧品



医薬品・医薬部外品



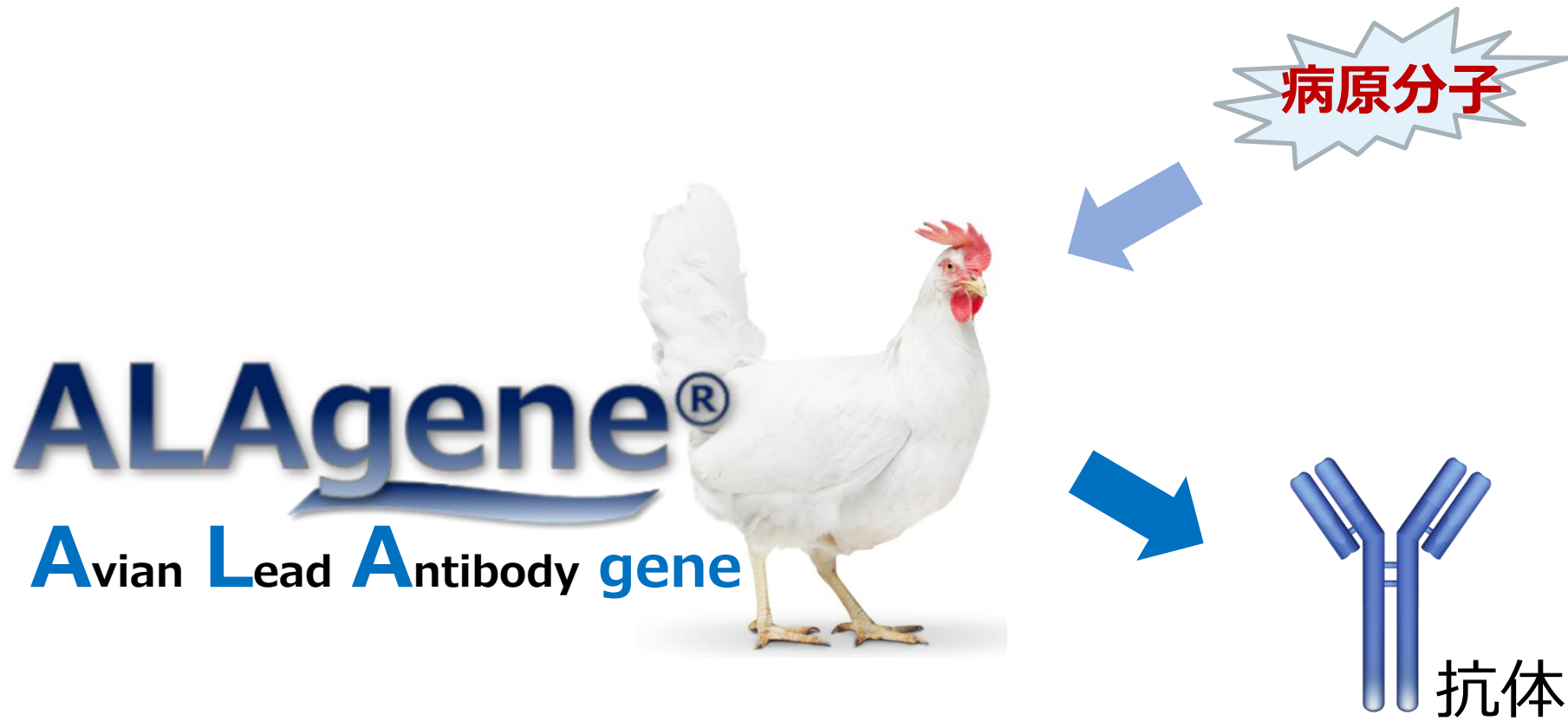
通信販売事業の収益構造

広告宣伝費は、顧客獲得時に計上するものの、売上高は定期コース継続中にわたって計上し、**売上高と広告宣伝費の発生時期が異なる構造**

収益構造のイメージ



“ニワトリ”から抗体医薬品を作る



1

作製困難抗体

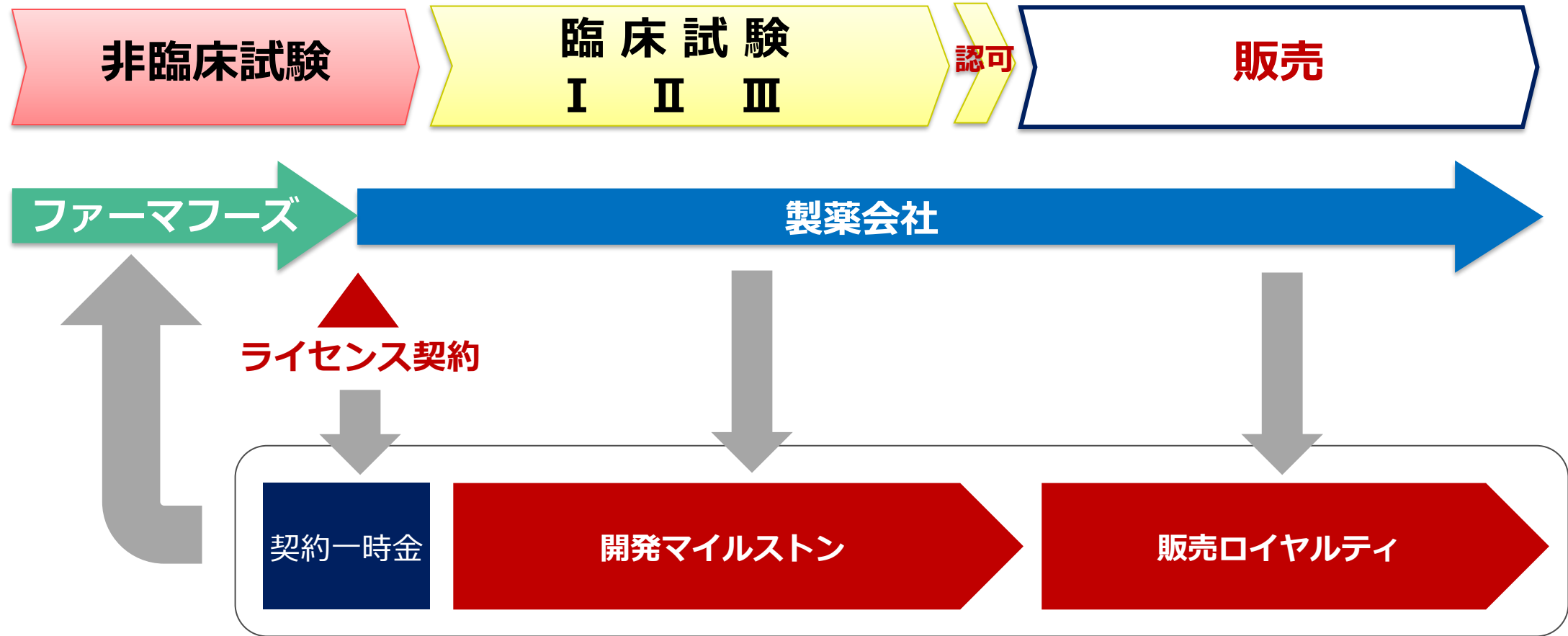
2

高結合力

3

ヒト化抗体

当社の特許を製薬企業へ実施許諾することにより、ライセンス収入を得る




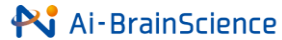



自己免疫疾患治療マーケットは5兆円以上

関節リウマチ治療薬のマーケット

分類	製品名	世界売上高 (2020年度)	販売会社
抗TNF α 抗体	ヒュミラ	1兆3,062 億円	米AbbVie社/エーザイ
可溶性TNF α /TNF β 受容体制剤	エンブレル	4,743 億円	Amgen社/Pfizer社/武田薬品工業
T細胞選択的共刺激調節薬	オレンシア	2,868 億円	米Bristol-Myers Squibb社/小野薬品工業
抗TNF α 抗体	シンポニー	2,774 億円	米Johnson & Johnson社/米Merck社/ 田辺三菱製薬
ペグ化抗TNF α 抗体Fab断片製剤	シムジア	2,289 億円	ベルギーUCB社/アステラス製薬
抗IL-6受容体抗体	アクテムラ	2,115 億円	スイスRoche社/中外製薬
抗TNF α 抗体	レミケード	1,686 億円	米Johnson & Johnson社/米Merck社/ 田辺三菱製薬

M&A、アライアンスに注力

2021年3月	三洋化成工業(株) 	▶資本業務提携（約4億円） 化粧品、アグリニュートリション、医薬品等の研究開発及び販売の連携
2021年7月	ロート製薬(株) 	▶資本業務提携（約6億円） ヘルス&ビューティケア及び食分野の製品開発、生産、販売の連携 （海外での素材生産基地）
2021年8月	明治薬品(株) 	▶完全子会社化（約23億円） 製造、ドラッグストア販路等の経営資源を活用 （医薬品、機能性食品の製造と全国ドラッグストア販路）
2021年8月	(株)アイ・ブレインサイエンス 	▶第三者割当増資の引受（6千万円） 認知機能低下の早期発見及びその改善のための機能性食品素材の組み合わせ （センシング技術と機能性食品の組み合わせ）
2022年5月	オンキヨー(株) 	▶持分法適用関連会社化 健康・医療機器の販売及び創薬事業におけるAIを活用した標的探索などの新規事業を推進
2022年4月	(株)アンテグラル	▶吸収分割 当社の抗体作製技術「ALAgene technology（アラジンテクノロジー）」と、アンテグラルが持つプロテオーム解析技術を組み合わせることで、創薬ターゲットの探索・同定をより強化